

第2回検討会議における各委員からの主な意見

- ・ 「人口減少下でも機能する地域社会を構築する」と明記していることは、とても良い。人口がどんどん減ってきており、また、地元の人には当たり前になってしまっていて魅力に気付いていないこともあるため、外部人材とのマッチングを念頭に置きながら、施策を推進してほしい。
- ・ DX、デジタル化を地域に呼び込み、課題を解決するためには、インターネット環境の整備もしっかりやってほしい。
- ・ 地域活動の主体はやはり地元の人になるので、外部の力も借りながら、「地域の人づくり」に焦点を当てた取組があるとよい。
- ・ SNS等を活用した魅力発信について、都市部の人々から見た山村地域のイメージをしっかりと作っていくことが大事になる。また、ターゲットに向けてどのような媒体でPRしていくかを検討していく必要がある。
- ・ 全体を通して、表現としてネガティブな部分とポジティブな部分のバランスに注意するとよい。
- ・ ビジョンの進捗管理として、県民に対する「周知」だけだと一方通行的なので、「共有」など双方向性が出るような表現を使った方がよい。
- ・ より滞留人口を増やすため、リニア中央新幹線と三遠南信自動車道の開通に期待するだけでなく、観光施設や交通インフラなど、地域をより魅力あるものにしていかなければならない。
- ・ 高齢者の増加について、高齢者は医療機関に行くことも難しくなることから、巡回診療の充実などにも取り組んでほしい。
- ・ 国内の食料について、中山間地が4割を生産しているというデータもあるので、中山間地の農業を守ることは食料安全保障の面でも大事になる。
- ・ 人を育て、文化を継承し、デジタル技術も活用して地域を支えていけるとよい。
- ・ ビジョンは行政の計画ではあるが、住民の目線、民間の目線というものも必要だと感じる。

- 教育環境について、よほど多くの転入者が来ないかぎり地域の子どもの数というのは決まってしまうため、高等学校の存続のためには、地域外からも魅力を感じるような地域の特性を活かしたカリキュラムを作るなど、在り方を見直す必要がある。
- 森林農地等の保全整備の推進のためには、森林農地等の多面的機能に対する理解促進のための取組も必要となる。
- 市としては、移住の促進、学生に担い手として参加してもらう地域活動、森林空間を含めた森林資源を活用したサービス産業、農作物の付加価値を高めるための有機農業の推進などに取り組んでおり、今後も重点的にやっていきたい。
- 市としては、山村地域の地域力向上、支え合いの社会を守るというコンセプトで、都市と山村の交流を進めていくとともに、集落機能の維持に重きを置いて取組を進めていきたい。
- 柱5「地域の自然を守り、育てる」については、この地域の自然は県全体にとって必要な「あいちの自然」であるというスタンスを出してもらえるとよい。
- いかに都市部の人々に山村地域の重要性や必要性を理解してもらって、一緒になって盛り立てていく体制を整えるかということが非常に重要である。
- 市内企業でも雇用不足が課題となっているため、農林水産業の担い手確保・育成に加えて雇用対策についても、取り組んでももらえるとよい。
- 新東名高速道路新城 I C、三遠南信自動車道鳳来峡 I Cに加えて、東名高速道路豊橋新城スマート I C（仮称）の開設が予定されており、都市部へのアクセスが格段に向上することから、それを活かした移住・定住の促進や、より結びつきの強い関係人口の創出を進めていきたい。
- 田口高校の魅力化については、引き続きビジョンに入れてもらえるとよい。
- P F I 事業など、民間の活力を必要としているが、田舎では事業者のメリットが少なく、離れていってしまう現状があるので、それをどう打破していくかが今後の課題である。
- 水源のかん養や多面的機能、産業振興の面を含めて森林整備について位置付けをしてもらえるとよい。

- 地域コミュニティや地域経済の維持のために、定住や人材の発掘の取組について、位置付けてもらえるとよい。
- 公共交通や情報通信基盤、医療などに加えて、高齢者の福祉の観点から、地域の人々の買い物について支援できる取組があるとよい。
- 柱建てを含め、ビジョンの構成については概ね全委員の合意を得られた。
- 「活動人口」というものをどう定義していくか、取組を評価する上でも重要なことだと思う。
- 外国人の増加は不可避であるので、豊田市など外国人が集中している地域の多文化共生に関する取組の蓄積を応用していくことが重要である。